

三六七七番

秋あきの野のを にほはす萩はぎは 咲さけれども 見みる験しるしなし
し 旅たびにしあれば

三六七八番

妹いもを思おもひ 眠いの寝ねらえぬに 秋あきの野のに さ雄鹿鳴をしかな
きつ 妻思つまおもひかねて

三六七九番

大舟おほぶねに ま梶かぢしじ貫ぬき 時待ときまつと 我われは思おもへど
月つきそ経へにける

三六八〇番

夜よを長ながみ 眠いの寝ねらえぬに あしひきの 山彦やまひこと
よめ さ雄鹿鳴をしかなくも